

# インドネシア・ボアレモ県産カカオ生産推進事業



ボアレモ県政府  
ゴーベル・グループ  
兼松(株)



PT DHARMA KARYATAMA MULIA



# チョコレートのビジネス

- “bean-to-bar”と呼ばれるチョコレート、ご存知でしょうか？例えばこの板チョコ↓、米国で1枚\$12で販売されていました。
- フェアトレード等、消費者にアピールするストーリーを背景に高付加価値なチョコレートのバリューチェーンを構築します。そして、収益の一部を農家に還元して、貧困農家の生計改善に充てるモデルです。(SDGs No.1 貧困をなくそう)

BUTUO, LIBERIA – 70%



Our Liberian beans come from a collective that rehabilitates and reintegrates former child soldiers, now adults, who were forced into the Liberian Civil War and trains them to be skilled cacao farmers. Liberation Cocoa is a collective of farms committed to economic and social justice. For more information please visit [www.liberationchocolate.com](http://www.liberationchocolate.com).

In Karen's first bar we taste earthy notes that melt into silky caramel, butter and cinnamon.

All of our single-origin bars are made with just cocoa beans and sugar, no added cocoa butter, lecithin, or vanilla.

2oz (56g)

\$12



# プロジェクトの実施場所 ゴロンタロ州



○ スラウェシ島

○ ゴロンタロ州

# ゴロンタロ州の特徴

- 2000年に北スラウェシ州から分離独立した新しい州です。
- トウモロコシ農業を支援する州の補助金政策は成功しましたが、焼畑を伴う移動農業が森林伐採を助長して、CO2の排出だけでなく、森林の保水力の低下が、土砂崩れや市街地の頻繁な洪水といった問題を引き起こしています。



出典：2015 ANTARA



出典：2017 KOMPAS

# 高付加価値化のストーリーは 森林保全とCO2削減



ゴロンタロ州では多くの農家がトウモロコシを植える為の土地を求めて、森林に入って伐採を進めます。これを焼畑農業、或いは移動農業と呼んでいます。ゴロンタロ州の森林減少の最大の原因は焼畑を伴う移動農業です。

# トウモロコシ農業の実情と カカオ農業の推奨

- 市場の成熟が進むと、仲買人が交渉力を強めて農家から多額の手数料を搾取し、農家の生計が悪化します。
- 兼松はこの課題を解決する為に、現地政府と大手財閥のゴーベルグループと協力して、収益性が高いカカオ栽培方法と収穫後の処理を指導し、良質な発酵豆を買い取るバリューチェーンを構築しました。



# 実施手段

- ゴーベルグループ(パナソニックの現地パートナー)は、中央政府と地方政府との調整で大活躍です。
- ゴーベルグループのホームタウンであるゴロンタロでは、同グループの信用力を背景に農家グループから絶大な協力が得られます。



# キャパシティビルディングの実施



カカオ農家だけでなく、トウモロコシ農家とも交流



# 現地政府と協力して 良質なカカオの栽培方法を伝授



通常のカカオ豆よりも、少し高い値段で豆を買い取ります  
これがカカオ農家が本プロジェクトに参加する動機づけです

# ゴロンタロ州の他県に拡大展開中

- ゴーベルグループ社員が現地に駐在して奮闘中
- カカオマス工場の建設に向けた投資を検討中
- 兼松はホームページ表紙に本活動を掲載中
- JICA様スタディーツアーでプロジェクトサイトを訪問頂きました



# JICA制度活用のメリットと 兼松の役割

- 利益を追求する民間企業にとって、貧困農家の生計改善という事業提案は、なかなか受け入れられません。最初は静かに動き始めましたが、JICA様プロジェクトとして確立すると、社内の了解が得られ易くなりました。  
⇒ その理由は、プロジェクトに透明性があるって、誰に説明しても納得感があったからだったと思います。
- 民間企業ではリスクをとりにくい本プロジェクトの様な事業は、JICA様事業、特に民間連携事業が上手くフィットするのではないのでしょうか。  
⇒ 提案に上記の納得感があると、採択の可能性が高まるという事だと思います。考えられるリスクをできるだけつぶしておくことが望まれます。
- 兼松の役割はCO2削減により本プロジェクトの付加価値を高める事です。  
⇒ CO2削減効果は約10万ト/年、これを世界銀行や国連基金が定めた価値US\$5ドル/トで換算すると、毎年50万ドルの事業価値となります。

# JICA制度の応募までの準備状況

- 応募までの期間に、提案する事業コンセプトから明確なインセンティブを得られる関係者が揃っていた事が大切だったと思います。
  - ⇒ 現地の県政府は新しいカカオ産業の立ち上げを望んでいましたし、カカオ農家は日本のカカオ豆買取業者の登場を待ちわびていました。ゴベルグループはJICAの官民連携事業が地元農家や現地政府を支援する事で、自社グループの評判を向上させる事を期待しました。
- 海外プロジェクトは一般にリスクが高いため、バリューチェーン構築の提案では、当然市場の動きと事業性を考えながらの提案準備となりました。
  - ⇒ 見識の高い専門家が提案チーム内にいないと動きを見誤ります。ダリケーさんの参画が重要でした。

これらを背景に、兼松は地球規模の気候変動プロジェクトに取り組む理由を説明しました。(ゴロンタロの森林保全による温室効果ガス削減が、日伊両国のパリ協定への貢献になると。)